

2026年1月11日(日)

日本キリスト教団 <sup>きゅうほうきょうかい</sup> 久宝教会

第68巻第39号(通算3476号)

教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
週報

教会標語

<sup>ちい</sup>小さく<sup>ひと</sup>されている人を  
<sup>たいせつ</sup>大切にする<sup>きょうかい</sup>教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもってあゆみを起こす人が  
みな、滅びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)

こうたんせつ  
降誕節

だい しゅじつ れいはい  
第3主日礼拝

<sup>れいはい</sup>《礼拝はインターネットで<sup>ちゅうけいはいしん</sup>中継配信いたします。ホームページにてどなたで  
も<sup>しちよう</sup>ご視聴<sup>ばしよ</sup>いただけますので、それぞれの場所で共に<sup>れいはい</sup>礼拝<sup>いただ</sup>をして頂<sup>け</sup>ます》

<sup>ぜんそう</sup>前奏<sup>もくとう</sup>(黙祷)

AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

<sup>まね</sup>招きの<sup>ことば</sup>詞

<sup>しへん</sup>詩編

<sup>へん</sup>36編<sup>せつ</sup>6-7節

<sup>さんびか</sup>賛美歌

21-312番「<sup>ばん</sup>紅海<sup>こうかい</sup>を<sup>わた</sup>渡り」(©讚美歌編集委員会)

<sup>せいし</sup>聖書

<sup>しゅつ</sup>出エジプト<sup>き</sup>記

<sup>しょう</sup>14章<sup>せつ</sup>10-31節

<sup>いの</sup>お祈り

<sup>さんびか</sup>賛美歌 1954年版『讚美歌』529番「<sup>ねんばん</sup>ああ<sup>さんびか</sup>嬉し<sup>ばん</sup>、<sup>うれ</sup>わが身<sup>み</sup>も」(©著作権消滅)

メッセージ

「<sup>すく</sup>救いの<sup>けいけん</sup>経験」

<sup>うしだ</sup>牛田<sup>ただし</sup> 匡<sup>ぼくし</sup> 牧師

<sup>さんびか</sup>賛美歌

『<sup>かぜ</sup>みんなの<sup>うた</sup>さんびか1』「風と歌う」(©JASRAC)

<sup>しゅいの</sup>主の祈り

21-62番「<sup>ばん</sup>天に<sup>てん</sup>います わたしたちの<sup>ちち</sup>父」(©讚美歌改訂委員会)

<sup>ささげもの</sup>献げ物(\*)

<sup>はけん</sup>派遣

21-91番「<sup>ばん</sup>神の<sup>かみ</sup>恵み<sup>めぐ</sup>ゆたかに<sup>う</sup>受け」(1節のみ)(©JASRAC)

<sup>しゅくふく</sup>祝福

<sup>うしだ</sup>牛田<sup>ただし</sup> 匡<sup>ぼくし</sup> 牧師

<sup>こうそう</sup>後奏

アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)

<sup>ほうこく</sup>報告

(4頁をご参照ください)

《<sup>せき</sup>席にお<sup>すわ</sup>座りになったままで<sup>れいはい</sup>礼拝<sup>さんか</sup>にご参加ください》

\*「<sup>ささげもの</sup>献げ物(献金)」は、<sup>うけつけ</sup>受付にある<sup>けんきんばこ</sup>献金箱<sup>ささ</sup>にお<sup>ささ</sup>献げください。

招きの詞 詩編 36 編 6-7 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>6</sup>主よ、あなたの慈しみは天にあり／あなたのまことは雲にまで及びます。

<sup>7</sup>あなたの正義は神の山々のよう／あなたの公正は大いなる深淵。

主よ、あなたは人も獣も救ってくださいます。

聖書 出エジプト記 14 章 <sup>しょう</sup>10-<sup>せつ</sup>31 節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>10</sup>ファラオが近づいて来た。イスラエルの人々が目を上げると、エジプト人が彼らの背後に迫っていた。イスラエルの人々は非常に恐れて主に向かって叫んだ。

<sup>11</sup>そして、彼らはモーセに言った。「エジプトに墓がないから、荒れ野で死なせるために私たちを連れ出したのですか。私たちをエジプトから導き出すとは、一体何ということをしてくれたのですか。<sup>12</sup>私たちはエジプトであなたにこう言ったではありませんか。『放っておいてください。私たちはエジプト人に仕えます。荒れ野で死ぬよりはエジプト人に仕えるほうがましです。』」<sup>13</sup>そこで、モーセは民に言った。

「恐れてはならない。しっかり立って、今日あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。あなたがたは今エジプト人を見ているが、もはやとこしえに見ることはない。<sup>14</sup>主があなたがたのために戦われる。あなたがたは静かにしていなさい。」<sup>15</sup>主はモーセに言われた。「なぜ私に向かって叫ぶのか。イスラエルの人々に出発するように告げなさい。<sup>16</sup>あなたは自分の杖を上げ、海に向かって手を伸ばし、海を二つに分けなさい。そうすれば、イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んで行ける。<sup>17</sup>私がエジプト人の心をかたくなにするので、彼らはその後を追って入って来る。そこで、ファラオとその全軍、戦車と騎兵によって私は栄光を現そう。<sup>18</sup>ファラオとその戦車と騎兵によって私が栄光を現すとき、エジプト人は私が主であることを知るようになる。」

<sup>19</sup>イスラエルの陣営の前を進んでいた神の使いは移動し、彼らの後ろから進んだ。それで、雲の柱は彼らの前から移動して、彼らの後ろに立ち、<sup>20</sup>エジプトの軍とイスラエルの軍の間に入った。雲と闇があって夜を照らしたので、一晩中、両軍が接近することはなかった。<sup>21</sup>モーセが海に向かって手を伸ばすと、主は夜通し強い東風で海を退かせ、乾いた地にした。水が分かれたので、<sup>22</sup>イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進んで行った。水は彼らのために右と左で壁となった。<sup>23</sup>エジプト人は彼らの後を追って行き、ファラオの馬も戦車も騎兵もすべて海の中に入って行った。<sup>24</sup>朝の見張りのとき、主はエジプト軍を火と雲の柱から見下ろされ、エジプト軍をかき乱された。<sup>25</sup>主が戦車の車輪を外し、進みにくくされたので、エジプト人は言った。「イスラエルの前から逃げよう。主が彼らのためにエジプトと戦っているのだ。」<sup>26</sup>主はモーセに言われた。「海に向かって手を伸ばしなさい。水はエジプト人の戦車と騎兵の上に返るだろう。」<sup>27</sup>モーセが海に向かって手を伸ばすと、海は夜明け前に元に戻った。エジプト人は水が迫って来るので逃げたが、主は彼らを海の中に振り落とされた。<sup>28</sup>水は元に戻り、戦車も騎兵も、彼らの後を追って海に入ったファラオの軍隊すべてを呑み込み、一人も残らなかった。<sup>29</sup>イスラエルの人々は海の中の乾いた所を進み、水は彼らの右と左で壁となった。<sup>30</sup>こうして、主はこの日、イスラエルをエジプトの手から救い出された。イスラエルはエジプト人が海辺で死んでいるのを見た。<sup>31</sup>イスラエルは、主がエジプト人に行われた大いなる業を見た。民は主を畏れ、主とその僕モーセを信じた。

## 《先週のメッセージより》2026年1月4日 新年礼拝

### 「作られた伝統」

牛田匡牧師

聖書 ルカによる福音書 2章 41-52節

あちこちで見られる「初詣」も、調べてみると明治時代に急速に鉄道が広がっていったのに合わせて、鉄道会社を作り出した歴史の浅い伝統だったようです。イエス様の少年時代の様子を描いたこのお話も、神殿参りという当時の慣習や、大人の学者たちと対等に議論するイエス様の神童ぶりを表しているようですが、それらは歴史的な事実というよりも後代に作られた伝統であり、いわば伝説でした。クリスマスに家畜小屋で生まれたイエス様を、現代でたとえて「クリスマスにイエス様は、ホテルの中に入れてもらうことが出来ずに、ホテルの外の駐車場で生まれた」と言われた人がいました。ですから「現代社会の中で、イエス様はどこに生まれたのか」ということを考えると、それはそれこそ妊娠を誰にも相談することが出来ず、日に日に大きくなっていくお腹に不安を覚えながら、孤独の内に出産し、その新生児を置いていかざるを得ないような方の所にこそ、イエス様は来られたのではないかと思います。固く、冷たく、孤独と悲しみに打ちひしがれ、神からも人からも見放されたようにしか感じられないような、絶望的な、そのような中であっても、それでも、そこもまた紛れもない神の家、神の働く場、神が共にいます場所である、ということ。そのような中であっても尚、隣にいてくれる人、声をかけてくれる人、手を差し伸べてくれる人たちがいる。だからこそ、私たちは今日も生きることができる。「主の祈り」で「今日の糧を与えたまえ（必要な糧を今日与えたまえ）」（マタイ6:11）と祈るように、今日一日を生きることが出来るのも、神と人によって支えられたから。それこそ「お陰様」であるからこそ、私たちは今日も生かされているということではないでしょうか。

「作られた伝統」と、その「背後にある真実」。それはいわゆる「陰謀論」のように、隠されていて、ごく一部の人だけしか知られていないようなことではなく、また「イエス様だから幼少期から天才だった」というようなごく一部の人だけを特別扱いすることでもなく、全ての命はかけがえのない大切な命であり、神が紛れもなく共におられて働かれていること、だからこそ生かされているということではないでしょうか。そのために神は最も小さくされた姿で、最も低い所に生まれたのだと思います。そのような神と共にあって、また周りの人々との間にあって、私たちは今日も恵みを頂きながら、生かされて参ります。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



## ◎ 先週の報告 2026 年 1 月 4 日 新年礼拝

礼拝出席 大人 5 人 献金 大人 4,000 円 中継視聴者数 21 回 感謝  
礼拝後に、皆でおぜんざいを頂きました。どうもありがとうございました。

## ◎次週 2026 年 1 月 18 日（日）降誕節第 4 主日礼拝

教会での礼拝は休会（教会堂は閉室）です。メッセージのみを 18 日（日）10 時半から、YouTube で配信いたします。

招きの詞 詩編 100 編 1-3 節

聖書 エレミヤ書 1 章 4-19 節

メッセージ「あなたを呼ぶ神の声」牛田匡牧師



## ◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ（全文）」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分を YouTube でご覧いただくことも可能です。
- ・本日、礼拝後に、釜ヶ崎支援のためにおにぎりを作り、いこい食堂にお届けしてお配りする予定です。お米と梅干しを献品頂きました。ありがとうございました。
- ・明日 12 日（月・休）14 時～16 時半にかけて、東梅田教会にて、大阪教区在日韓国朝鮮人問題シンポジウム「敗戦 80 年・日韓基本条約 60 年 今、私たちの課題は」が開催されます。講師は金性済（キム・ソンジェ）牧師（日韓和解と平和プラットフォーム書記）です。参加費は無料で、事前の参加申込も不要です。どなたでもご参加ください。
- ・1 月 17 日（土）16 時～から、神戸栄光教会にて兵庫教区主催「兵庫県南部大地震記念の日追悼礼拝」が行われます。会場でのご参加だけではなく、礼拝はオンラインでも中継配信されますので、兵庫教区事務所のホームページにてどなたでもご視聴いただけます。 <https://www.uccj.hyogo.jp/>
- ・1 月 17 日（土）13 時半～16 時にかけて、京都にある日本クリスチャン・アカデミー 関西セミナーハウス活動センターにて音楽家・朴実さんによる「共に生きる社会を目指し～東九条マダンに託する願い～」が開催されます。会場参加の他、ZOOM でのオンライン参加も可能です。1 月 14 日までにお申込みください。参加費は 2,000 円。  
<https://www.academy-kansai.org/index.php>

## ◎ 次週以降の行事予定

|      | メッセージ | 行事                               |
|------|-------|----------------------------------|
| 1/25 | 牛田匡牧師 | 誕生者祝福式<br>14時～河内地区女性会<br>（@枚岡教会） |
| 2/1  | 牛田匡牧師 | ユーカリスト・教会を考える会                   |
| 2/8  | 牛田匡牧師 | （信教の自由を守る日）                      |
| 2/15 | 牛田匡牧師 | おにぎり支援？                          |

2025 年度 修学院フォーラム「福祉」第 3 回

日本クリスチャンアカデミー  
関西セミナーハウス活動センター

共に生きる社会を目指し  
～東九条マダンに託する願い～

会場と  
Zoom

講師 朴 実（音楽家）

朝鮮（韓国）と日本の近現代史・朴さん個人史より、お話を伺います。  
キリスト教会で洗礼を受けたこと（1959 年）、教会告発闘争のこと（1972 年）、「帰化」時強制された「日本の氏名」から、裁判により、日本で初めて民族名を取り戻されたこと（1987 年）、10 指指紋返還訴訟裁判に勝訴されたこと（1991 年）。そして、東九条マダン元実行委員長のお立場から、「ともに生きる社会」について語られます。

♪朴さん作曲  
「わたしたちの父よ母よ」  
をご本人のピアノ伴奏により、皆さんと歌います。



日時 2026 年 1 月 17 日（土）13:30～16:00

参加方法 関西セミナーハウス会場 または、リモート参加（Zoom）

参加費 来館/リモート共通 2,000 円 学生 500 円 [リモートは送金で（案内裏面）]

◎講師は、会場で講演し、話し合いに参加します。参加者は、次のいずれかの方法で参加できます。

[来館参加] 関西セミナーハウスの会場に集まり、講演を聞き、話し合いに参加します。

[リモート参加] パソコンかスマートフォンなどを利用して、任意の場所でネットを通して参加することができます。申し込みの際にメールアドレスをお知らせください。顔映後メールアドレスにて Zoom の招待状をお送りします。



申込フォーム



朴 実 ばく しる / Pak Shil

1944 年 1 月 17 日、京都市南区東九条で生まれる。在日朝鮮人 2 世。  
音楽家（作曲）。キリスト教徒。  
京都市立音楽短期大学および専攻科（現・京都市立芸術大学）卒業。  
1971 年「帰化」によって日本国籍になる。1987 年 2 度目の裁判で、「帰化」時強制された「日本の氏名」から民族名を取り戻す（日本初）。  
1994 年「帰化」時強制された 10 指指紋返還訴訟裁判に勝訴（1991 年優勝）。2024 年 3 月末まで京都・東九条 CAN フォーラム代表を務める。  
東九条マダン元実行委員長。

※要申込み＊ 1 月 14 日（水）までに WEB フォーム、電子メール、電話、Fax 等で裏面表式の内容でお申し込みください。